

SI 近江八幡 C地区大会クラブ発表用 スライド&原稿



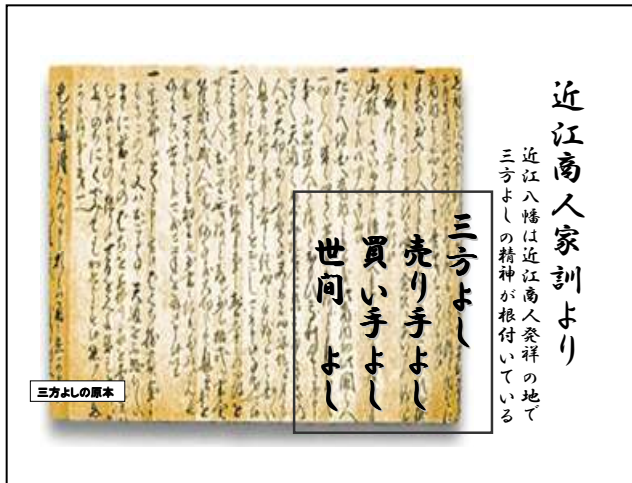
① SI 近江八幡の山川でございます。
先ず始めに、さらに知名度アップにつ
ながるクラブ発表の機会を頂戴しま
したことを感謝申し上げます。



② SI 近江八幡は昨年 11 月に認証 20
周年の節目を迎え、記念祝典を挙
行することができました。祝典の最大の
意義は「継続は力」と全会員が自信を深
め合ったことですが、「知名度アップ」
の面でも同じことを実感しております。



③ 祝典には地元の奉仕団体の長を多
数お招きし、20年間のクラブの歩み
と実績を映像で披露いたしました。
お蔭で後日、それぞれの団体の会合
等で当クラブの活動ぶりが報告さ
れ、また話題となりました。



④ 当地近江八幡は近江商人発祥の地で「売り手よし・買い手よし・世間よし」の三方よし精神が根付き、市民による奉仕活動がことに盛んな土地柄でございます。その土地柄の中で、特に話題になったのが、長年にわたって継続してきた二つの事業の成果でした。



⑤ 一つは、1992年から始めたフィリピン・ネグロス島の子ども達の教育支援事業です。支援の中身は年により様々ですが、奨学資金の贈呈だけは1995年以來欠かさず続けてまいり、14年目になる今年は小学生から大学生まで計26人を支援しております。



⑥ 最も大きな支援は現地拠点施設の建設です。雨季は増水で通学できなくなる山岳地帯の子ども、家庭崩壊等で学業困難な生徒のために宿泊兼避難場所を作ろうとバザー、映画会等を開き、5年がかりで資金調達をいたしました。

2005年セミナーハウス希望館 寄贈



完成したセミナーハウス

⑦ その甲斐あって2005年にセミナーハウス「希望館」の寄贈が実現しました。スカラシップの子ども達は貧困にあえぐ母子家庭の子が殆どですが、「希望館」設立以来、共通学力検査で良好な成績を修める生徒が急増し、中には上級校進学のための公的奨学金を自力で獲得する生徒が出てきました。

子どもたちとともに、
大きく成長したポメロの木



記念植樹 (2005年)



現在のポメロの木 (2008年)

⑧ 国際ソロプチミストの銘版をはめた「希望館」は、竣工記念に植えたポメロの木と同様、今や子ども達の大切な学びの舎としてすっかり定着しております。日曜ごとに子ども達がやってきて、同じスカラシップの大学生から勉強を教わり、夜間には電気がない家庭の子ども達が集まって一緒に宿題をやっています。

ネグロス島の子どもたち



ケロチンランプの灯りで
勉強する少女

ハウス廊下で小・中学生の
勉強を支援する大学生



⑨ その中で、年長の子が年少の子の面倒を見るのが当たり前ようになったそうです。子ども達からの近況報告を読むたび、将来の自立に向けて私達の支援が着実に実りつつあるのを感じ、会員一同、大きな喜びと励ましを受けています。

継続奉仕事業その2

子育て支援の集い

2000年から現在まで



地元イベントにおけるポスター展示

⑩ 二つ目は2000年から始めた「子育て支援の集い」の事業でございます。少子化が目立つ地域の若い世代の親子向けに、その時々々の世相やニーズに即したテーマを設け、育児相談や託児サービスも行いながら人形劇、音楽会、映画会、或いは講演会などを年1回、開催してまいりました。



2000年5月

子育て支援の集い

幼児相談
託児サービス

人形劇
音楽会
映画会
講演会



2005年5月

⑪ きまって“子どもの日の月間”の5月に大々的に開催することで、次第に地域に浸透し、幼児教育関係者の理解も深まった結果、保護者への周知にも積極的に協力して頂けるまでになりました。



2008年5月18日 中日新聞

第9回子育て支援の集いで
市内の幼児教育施設に絵本を贈る。

⑫ 昨年の集いからは、感謝の気持ちも込めて市内の全幼稚園・保育所に絵本を寄贈することもしております。



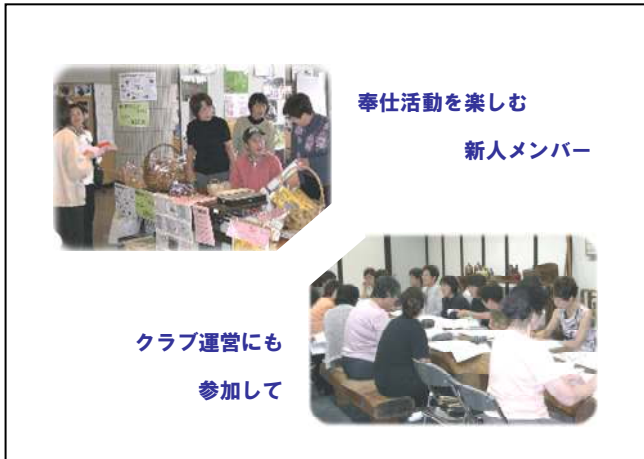
⑬ 第10回目に当たる本年は、乳幼児を持つ親子が共に楽しめる場と時間をと、プロの人形劇団を招きました。ところが直前に新型インフルエンザ騒ぎが起こり、後援者でもある市当局から自粛要請を受け、開催を延期せざるを得なくなりました。改めて7月に開催したところ、酷暑の中を、予想を上回る大勢の親子連れにご参加頂きました。会員一同、地域から寄せられた期待と信頼の厚さに感激するとともに大いに励まされたところがございます。



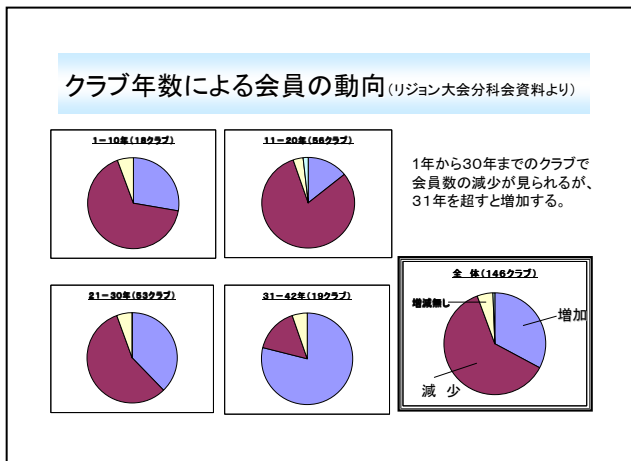
⑭ ところで、認証20周年を祝うにあたり、当クラブが最初に取り組んだのは会員増強でございます。祝典の1年前から、クラブをあげて取り組んだ結果、8名の入会があり、祝典当日はクラブ発足時の1.5倍にあたる44名の態勢で迎えることが出来ました。



⑮ このときの新入会員は比較的若い方が多く、この成果に対して2008年度「成功を祝うソロプチミスト賞」のリジョン最優秀賞を受賞いたしました。



⑩ どの新入会員も一度ならずネグロス島支援の写真展示を見たり、子育て支援のつどいに参加した経験を持ち、自分も仲間入りしたいと思っていたと語っております。つまり、長期にわたる継続事業のお蔭で、いつの間にか地域にクラブのファンが育っていて、若い会員の増強がしやすくなっていたということが言えると思います。



⑪ リジョン・メンバーシップ委員会のアンケート結果を見ると、認証後30年以上ともなると会員数が安定し、増加するクラブが圧倒的に多くなっています。やはり長い歴史の中で積み重ねてきた実績が知名度アップをもたらし、強い誘引力を持つのだろうと思います。SI 近江八幡も次なる30年の節目に向けて、更に奉仕の輪を広げつつ地道な積み重ねを行っていきたいと考える次第でございます。



⑫ ご清聴まことに有り難うございました。